

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名 花きの担い手育成経営・技術支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 花き振興係 電話番号：058-239-3163(内115)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,475 千円 (前年度予算額：7,475 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	7,475	7,475	0	0	0	0	0	0	0
要求額	7,475	3,737	0	0	0	0	0	0	3,738
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・本県の花き類は、全国3位の出荷量を誇る鉢物をはじめ、苗物、切り花等が生産されている。
- ・花き産出額は、H15の98億円をピークに右肩下がりとなり、コロナ発生前は65億円前後、コロナ発生後は50億円弱で推移。
- ・県では、R3に新たな花きの需要開拓を目的に、花き業界と産学金官の異業種が業界の壁を超えて連携する組織として「ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」を、R4に「花き産業の振興」と「花きの担い手の育成」の拠点として清流の国ぎふ花と緑の振興センターを開設。
- ・センターでは、R4から花き生産者等を対象とした経営力向上研修を、R5からは経営力向上研修に加えて、花きの基本的な栽培管理技術やDXを活用した環境制御技術、県育成品種のフランネルフラワーの栽培技術等を習得させる技術研修を開催。
- ・花き生産者の所得をコロナ以前に戻し、「儲かる農業」を実現させるためには、個々の生産者のレベルアップが必要で、経営面では苦手としている経営計画、労務管理、販路開拓や新商品開発、技術面では適正な栽培管理技術等の習得を図る必要がある。
- ・センターの研修についても、花き生産者が抱える課題を速やかに解決するため、研修内容の更なる充実が必要である。

(2) 事業内容

花きの担い手を対象とした、経営・技術支援の研修を開催 7,475千円

○経営力向上研修

SNSを活用した販売や情報発信をより実践的・専門的に学ぶ専門講座と、経営分析や労務管理、商品開発等の基本を学ぶ基礎講座を開催する。

○栽培技術研修

岐阜県育成品種のフランネルフラワー等を使い、基本技術の習得や生産者の抱える課題の解決、温室内の環境測定データをリアルタイムに把握し、栽培環境を制御するDX技術を習得する研修を開催する。

(3) 県負担・補助率の考え方

当該研修は、経営感覚に優れた花きの担い手育成と花き産業の振興の拠点施設である清流の国ぎふ花と緑の振興センターが実施するものであり、県が負担することが妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	612	技術研修外部講師、研修企画審査員報償費
旅費	255	外部講師旅費、研修企画審査員旅費
需用費	3,016	肥料農薬資材費、燃料費、光熱水費、事務費
役員費	163	通信費
委託料	3,347	経営力向上研修業務委託
その他	82	修繕費、会議室使用料
合計	7,475	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

清流の国ぎふ花き振興計画（R3～R7）

国際園芸アカデミー有識者会議報告書（令和2年度）

岐阜県デジタル・トランスフォーメーション推進計画（R4～R8）

(2) 国・他県の状況

国では、花き振興法に基づく基本方針を令和2年に見直し、暑熱対策やスマート農業技術の導入などの栽培技術の向上により、生産者の経営安定を図っていくこととされた。

(3) 後年度の財政負担

清流の国ぎふ花と緑の振興センターは県が設置する組織であり、花きの担い手育成のための経営・技術研修実施に関して、県が継続して財政負担する必要がある。

(4) 事業主体及びその妥当性

県の組織であり、県が事業主体となることが妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

販売金額300～3,000万円の中規模の花き生産者の経営力、技術力を身につけ、経営感覚に優れた生産者にレベルアップさせることで花き生産の振興を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
花き産出額	47.2億円	48.2億円	66億円	68億円	70億円	69%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 3 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 4 年度	<p>1 経営力向上研修 (1)集合研修 開催回数5回、受講者数18名 (2)オンライン研修 10講座、受講者数 約40名</p> <p>2 技術研修 ・R4は研修温室を整備 (2a×2棟)</p> <p>指標① 目標：64億円 実績：48.2億円 達成率：75 %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>ここ3～4年は社会情勢が一段と変化してきており、この難局を乗り切るためにも、経営感覚に優れた花きの担い手を育成を目指す当該事業の必要性は高い。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>研修修了者は、受講後、新たな視点でのモノづくりや社員との経営方針の共有化など、経営改善に取り組んでおり、有効性のある事業である。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>社会情勢を踏まえ、花き生産者が習得すべき知識・技術に絞って研修科目を設定しており、事業効率化が図られている。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 コロナ、ウクライナ紛争、資材・燃油高、円安などによる生産環境、消費動向が大きくかつ目まぐるしく変化しており、これらの変化に合わせた研修プログラムを設定できるかが課題。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 時代の変化に対応しつつ、生産者のレベルに合わせた、基礎～専門講座まで、幅広く研修プログラムを用意し、自ら考えて経営改善に取り組むことのできる、経営感覚に優れた花きの担い手の育成に努める。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	